

団体名	公益財団法人 滋賀県国際協会	多文化共生のまちづくり推進事業 事業費総額 1,030千円	ジャンル	労働 子ども・教育
-----	-------------------	----------------------------------	------	--------------

## 事業名 外国にルーツを持つ子どもへの教育支援事業 2015 ～教育支援から就労支援へ～

**特徴** 外国にルーツを持つ先輩たちと関わらせる「進路ガイダンス」や「キャリアデザイン研修 職業人と語る会」を実施することにより、進学・就労にいたるまで、子どもたちが自身の進路選択を幅広く考えることができるような機会提供を図っている。

### 事業のポイント

- ◇ 先輩等の体験談を直接聞き、具体的な将来モデルを示すことで、外国ルーツの生徒たちのエンパワメントを図る機会を提供する。
- ◇ 他府県からの関係者の見学を受け入れることで、同様の事業が全国に普及することを促進する。

### 事業の背景・目的

- ◇ 日本の教育制度や必要な教育資金等に関する情報不足の声が絶えないことから、引き続き、奨学金や進路選択に関する情報を保護者や子どもへ説明する機会が必要である。
- ◇ 身近なロールモデルとの出会いを提供することで、外国ルーツの生徒たちに進路に関するより幅広い選択肢を与えること、また、学業へのモチベーションを高めることにつなげることをねらいとしている。
- ◇ 企業関係者が直接外国ルーツの生徒と交流することで、偏見や先入観を払拭し、彼らも未来を担う人材であるという認識を持つことを期待。

### 事業の概要

#### [1] 多言語での進路ガイダンスの実施

主に高校進学に向けたガイダンス（内容：先輩の話、滋賀県教育委員会による進路説明、進路相談）を開催、多言語版の進路資料を発行。

① 未来のための進路ガイダンス～中学を卒業したらどこで何をするの？ 開催  
○近江八幡会場 8/9（日）23人参加 ○長浜会場 9/27（日）7人参加

#### ② 多言語版進路資料の作成、配布

進路ガイダンスでの配布および、各市町教育委員会、学校からの依頼に基づき発送。《翻訳言語》日本語（るび付き）、英語、ポルトガル語、中国語、スペイン語、フィリピン（タガログ）語 全6言語版

- ・「未来のための進路ガイダンス 2015」
  - ・「夢への作戦会議シリーズ」（職業案内）
- ※当協会HPで公開

#### [2] 外国にルーツを持つ高校生へのキャリアデザイン研修の実施

① 運営会議の開催 開催回数：計3回（4/20、5/20、10/1）

#### ② 職業人（プロフェッショナル）と語る会 開催

高校や大学卒業後の自身の将来に幅広いビジョンが持てるように、社会の第一線で活躍する先輩方に直接話を伺う機会の提供を行った。  
開催日時：7/22（水）13：30～16：30（近江八幡市）  
参加者：高校生57人（公立高10校 プラジル人学校2校 その他）  
職業人ゲスト17職種＋現役大学生 20人  
見学者：「地域の外国人児童・生徒への支援セミナー」（CLAIR・JIAM主催）  
参加者・引率者 計18人 など

2004年度	進路ガイダンス事業立ち上げ、進路資料作成
2005年度～	進路ガイダンス開催開始（以降、継続開催、資料更新随時）
2012年度	キャリアデザイン研修事業立ち上げ、職場見学・先輩と語る会実施
2013年度	// 職業人と語る会、職場見学・ビジネスマナー研修実施
2014年度	// 職業人と語る会、プラジル人学校へのキャリア教育出前授業実施
2015年度	// 職業人と語る会実施、CLAIR・JIAM 実施研修の受入



未来のための進路ガイダンス



職業人と語る会 ゲストによる自己紹介の様子  
地元のテレビ局の取材があり、後日放映された。

## 事業実施における工夫点・事業の成果等

- ◇ 県域で唯一の多言語での進路ガイダンスであり、県・市町教育委員会をはじめとする関係機関やNPO団体との協働で実施をして10年目となり、県内でも定着してきた。
- ◇ 当協会が作成した進路資料を活用し、学校内に外国にルーツを持つ子ども向けの進路説明会を開催するところも出てきており、学校や関係機関との連携が促進されている。
- ◇ 「職業人と語る会」に参加した高校生対象のアンケート結果からは、「卒業後の進路を考えるきっかけになった（76%）」、「今まで以上に学ぼうという気持ちになった（85%）」と回答。また、この研修の協力者や見学者対象のアンケート結果からは、「外国にルーツを持つ生徒たちの状況や課題を知るきっかけになった（90%）」、「彼らに対するイメージが（良い方に）変わった（58%）」という回答があった。
- ◇ 過去に教員が引率をして参加した学校からは、参加後の生徒の変化や進路状況について、継続的に情報が入る環境が整ってきている。
- ◇ CLAIR と JIAM が実施するセミナーの実地研修先として正式に受け入れを行い、翌日 JIAM で当該事業についての講義の機会も得た。この研修を受講された「(社福) さぽーと21」の職員からは同様のセミナーを開催されたとの連絡を受けた。
- ◇ こうした研修を受けた青年たちが、将来自立した大人となり、今度は後輩たちの身近なロールモデルとなることが期待される。実際に外国籍の現役大学生が1ブースを担当し、高校生たちに「絶対に諦めなければ、夢は叶う」と熱いメッセージを伝えたところ、大変感銘を受けたという高校生たちの姿があった。
- ◇ 昨年度、当該助成事業の一環として取り組んだブラジル人学校へのキャリア教育出前授業を、今年度は同講師が継承して主体的に実施されることとなった。キャリア教育をカリキュラムに持たないブラジル人学校にとって、孤立を防ぐ上でも重要で、この助成事業がその契機となったことは成果の一つと考える。
- ◇ 当該事業へ地元のテレビ局（びわ湖放送）の取材があり、在住外国人向け番組において特集として放映された。  
→ 「Tudo Bem! SHIGA」 [http://www.pref.shiga.lg.jp/nettv/tudobem\\_shiga/2.html#v20150926](http://www.pref.shiga.lg.jp/nettv/tudobem_shiga/2.html#v20150926)



職業人と語る会 会場の様子



職業人ゲストの話に熱心に耳を傾ける参加生徒

## 今後の課題・将来に向けての展望等

- ◇ 外国にルーツを持つ子どもたちのエンパワメントを支援すると同時に、彼らを受け入れる社会づくり、とりわけ雇用する側（経済界関係者）への理解促進が必要不可欠であると感じている。
- ◇ 進路ガイダンスを実施して10年以上が経過し、当時参加者だった中学生がこの事業をきっかけに、中卒での就職から進学へと進路選択を変更したケースなどが成果として多数見られることから、こうした自立できる人材を今後も輩出していくことが期待できる。
- ◇ 協力企業関係者には、この事業を通じて外国にルーツを持つ青年たちと直接交流を持つことで、彼らに対する偏見や先入観がなくなる効果が期待され、将来的に彼らを直接雇用する企業が増えることを願っている。

## 事業担当者のふりかえり

- ⇒ 地域において、外国にルーツを持つ人たちと共に学び、共に働き、共に暮らすことが、至極当たり前であるという認識がさらに広まり、すべての人が安心して安定した生活が送れるような多文化共生社会の実現を願っている。
- ⇒ 同じ思いを共有できる当事者の傍らに寄り添う方々を事業運営に巻き込むことで、実際のニーズに合った事業を実施することが可能となる。こうした思いの連鎖が、すべてをよい方向へと導いてくれることを実感している。